

秋田県 男鹿市商工会

# 男鹿はハタハタ、しよっつるで

男鹿（おが）を代表する魚・ハタハタをさらにPRし、消費拡大・観光客誘致につなげようと、商工会（加藤義光会長）は十二月六日を「男鹿ハタハタの日」に制定した。

ハタハタの水揚げは例年九月中旬から底引き網漁で始まり、漁は産卵のためハタハタが接岸する十二月に本格化する。水揚げで賑わう漁港や岸辺に打ち上げられるブリコ（ハタハタの卵）は、冬の風物詩ともなっている。

ハタハタは二〇〇二年十二月六日に「県の魚」に制定され、〇六年には、伝統魚醤「ハタハタしよっつる」がスローフード協会（本部イタリア）の世界的に希少価値がある食品を認定している「味の箱舟」に認定された。

県水産振興センターによると初漁日の平均は十二月六日で、「県の魚」に

認定された日でもあることから、この日が「ハタハタの日」に選ばれた。当日は、制定を記念して「味の箱舟」ランチツアーと制定記念式典が開催された。

「ランチツアー」には二〇名が参加し、「ハタハタしよっつる」を製造している諸井醸造所見学、港での荷揚げ作業見学、男鹿水族館GAOでのハタハタ生態観察の後、男鹿温泉郷の四つのホテルに分かれ、ハタハタやしよっつるを使った創作料理など男鹿の食文化を味わった。

その後、「男鹿温泉交流会館 五風」で行われた記念式典では、ハタハタメニューの除幕式、ハタハタ大使・山谷初男さんの任命とトークショー、ハタハタサンバや男鹿なまげ太鼓の実演が行われ、会場前でのハタハタ産直も人気を博した。



商工会では、今後「ハタハタの日」に合わせて産直やランチフェアなどを展開し、男鹿の食文化をPRして、賑わいづくり創出に取り組みていく予定。

岩手県 前沢商工会青年部

# 古木を剪定、桜を元気に

市内前沢区のお物見公園にはソメイヨシノ、エドヒガンなど約二五〇本の桜の木があり、春には市民の目を楽しませているが、戦前に植えられたものが多く、古木となっている。

十一月十一日、この古木の元気を取り戻そうと、青年部（三浦純部長）が初めて剪定作業に取り組んだ。参加した部員一五人は、脚立を使って約八〇本の桜の枝の剪定や施肥作業を行った。

三浦部長は「桜の名所・お物見公園は市のシンボル。桜の輝きを取り戻し、皆がお花見を楽しめる場所にしたい。月末には新たな植樹も行いました」と話している。



新潟県 山古志商工会女性部

# 復活は「ふっカツ」食べて頑張ろう

商工会女性部副部長・田中悦子さんが、新潟を代表する食材の車麩をカツにした「ふっカツ」を考案した。中越地震の被災から立ち上がる山古志の復活をイメージしてネーミングし、女性部が売り出したところ、外はサクサク、中はふわふわでおいしいと観光客にも人気を呼んでいる。

車麩は、山古志地域では味噌汁の具や煮物に使われることが多い。串に刺し、しよっつるのたれをまぶし、パン粉などカツ同様に衣をつけて揚げる。

一昨年十一月、地震後初めて地元で開かれた産業まつりで発売し、昨年の五月から山古志支所前で開かれる定期的イベントで販売。昨年十一月三日の産業まつりでも販売したが、一本一五〇円で二〇〇本を用意しても、毎回すぐ完売する人気ぶり。当初は復興に向けて元気が出ればいいと思っていた田中さんだが、全国の同様の被災地の復活に広がればと考えている。



種芋原（たねすはら）集落では、女性部の呼びかけに添えて、「やまびこ食堂」のメニューに昨年五月から「ふっカツ丼」が加わった。カツ丼と同じように見えるが、中身はヘルシーな車麩。店主の坂牧生菜さんは新しい名物になるのではないかと期待している。

三重県 楠町商工会

## 困り事解決「救Qらくだ」発足

楠町地区では年々高齢化が進み、量販店では補えないようなニーズが増えてきていることから、商工会員有志が地域の人の困り事を解決する「ミニティールビジネス」困り事救Qらくだ」事業をスタートさせた。

地域貢献はもちろん、事業所の顧客の確保や新規開拓にもつなげたいと考え、一昨年から企画してきたもので、商工会に所属する約二八〇事業所のうち、大工、家具製造、ごみ処理、電気など一五店舗が参加している。

住まいの修理、庭木の剪定といったことから

電球の取り替えや不燃ゴミ・粗大ゴミの処分などを有償で提供する。どこに頼めばいいかわかりにくいモノとサービスでも、商工会の窓口で依頼していくと、商工会が適当な事業所を探して紹介し、そこからは依頼者と事業所間の話し合いとなる。

NPOやボランティア団体ではなく商工会によるミニティールビジネスは珍しい。事業の代表・原田電器の原田芳夫さんは、「商工会会員であることの信用も強みの一つです。プロとして住民の手助けサービスをすることで、活性化していきたい」と話している。

高知県 仁淀川町商工会

## 地域商品券で森を育てよう

仁淀川町は平成十七年度から四年間、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が自治体などに委託する「バイオマスエネルギー地域システム化実験事業」に取り組んでおり、佐川町内の実験事業地で木材の未利用材で、発電やペレット製造、運用コストなどの検証を進めている。

そこで、商工会では実験事業地に端材を持ち込む林業家らへの報酬にあてようと、町内で使える地域商品券「ecotree」を八月から運用している。四万十市西土佐地区の地域流通商品券「ウエス土佐」を参考に四〇〇万円分が発行され、全額を町が買い取る仕組みで、事業PRや森林整備、町内での買い物など地元商店街の振興もねらっている。

町は住民が持ち込む未利用材を一トン三〇〇〇円で買い取る際、三〇〇〇円の商品券を上乗せする。木材の計量や商品券を渡す業務は町から委託された仁淀川森林組合が行う。一〇〇〇円と五〇〇円の二種類の商品券は、町内約七〇軒の商品券加盟店で使用でき、加盟店は一%の手数料を商工会に払って換金もできる。

商工会は森をあしらった商品券と同一イメージのステッカーを商品券加盟店に配布・PRしており、将来は一般の人でも使える仕組みにしたいと意気込んでいる。「曲がり材や木の根元はまきにするか、いの町のチップ工場に運ぶしかなかった。この取り組みで木材全部が有効活用でき、収入の足しにもなる」と住民の評判は上々だ。

長野県 商工会青年部連合会・女性部連合会

## 観光は「信州お出かけ食べルート」

地元だからこそわかる名所・名店紹介で観光振興につなげ、地域経済活性化をめざすと、青年部連合会・女性部連合会が「地元若衆・女衆がこっそりおしえる信州お出かけ食べルート」を発表した。



九ルートを発表した。県内観光地、飲食店、土産品などを会員が回って調査・

作製し、十一月十四日、長野市で開かれた県商工会連合会の会合でルートをパネルで展示したほか、四ルートについての発表会も行った。ルートごとに「女衆いちおしうまいもん」として飲食店や土産品を写真入りで紹介、店の連絡先、観光スポットや移動に要する時間なども載っている。

青年部連合会の森口輝臣会長は、「実際に回ってみて、再発見した魅力も多かった。県外からの観光客だけでなく、県内の人にも役立つと思います。年度内には冊子にして、三〇〇部を旅行社や道の駅に配布予定です」と意気込んでいる。

熊本県

氷川町商工会青年部

# もち米でパン作り、バーガー登場

十一月九日、旧竜北町時代から毎年開催してきた「火の君まつり」が行われ、町特産のもち米で作られたパン生地を使った「ひのきみバーガー」が初登場した。「火の君まつり」は、古墳時代に栄え



たとされる火の君一族にちなみ、町などで構成する実行委員会が開催している。「ひのきみバーガー」は、商工会青年部（吉見和晃部長）が試作を重ねてきた。パン生地には町産もち米と小麦粉をほぼ同率で配合。「火の君まつり」では、商工会会員の焼肉店の国産黒毛和牛を使ったハンバーガー、町産レンコンを使ったレンコンハンバーガー、計一〇〇個を販売した。会場となった竜北グラウンドでは、町の特産・梨の早むき大会、伝統芸能の披露なども行われ、「ひのきみバーガー」は午前中に完売。「もちもちしたパンの食感がおいしい」「新鮮な感じ」と好評だった。

滋賀県

甲南町商工会

# 忍者衣装でファッションショー

十一月二日、「忍者の里」で知られる甲南町の甲賀市役所甲南庁舎で、忍者衣装のファッションショー「ニンフェアー」が開かれた。

商工会がイベントなどで使っている衣装が古くなったため、「甲賀忍者をモチーフに、格好よく変身させられないか」と作品を募集。一次審査を通った一点がショーで披露された。市の花のササユリにちなんだ純白の衣装「くノ一」や、ベルト

に「甲」の文字を入れたヒーロー風のものなど、ディースファッション専門学校生（京都市下京区）らがデザインした個性的な作品が注目を浴びた。最優秀には西洋風の「コルセットをあしらった作品が選ばれ、今後は観光PRなどに活用される予定だ。

同校生徒の作品はモデルも生徒が務め、忍者の衣装には着物の型紙を使う必要があるなど、普段とは違う勉強になって楽しかったと話していた。



富山県

庄川町商工会

# 鯉キャラ登場、モニュメントも

商工会（宅間三郎会長）は庄川峡観光協同組合（小西淳一理事長）と協力し、庄川地域の観光振興をめざしている。町内の庄川水記念公園で伝統行事「厄払い鯉（こい）の放流」が行われることから、

昨年には放流地点の展望休憩所を「鯉恋（こいこい）の宮」として、カッパルが鐘を鳴らし、絵馬をかけるなど、恋にご利益のあるスポットとして整備してきた。



占い師を招いたイベント開催などに続き、このほど、キャラクター活用で更なる進展を図ろうと、「こいをモニュメント」などで鯉こいっぴ」を設置し、除幕式に参加した宅間会長、小西理事長、森さん、藤森栄次市観光協会会長らが鯉をなで回し、触り心地を確認。台座からの高さも一一五一（いいこい）ミリにするなど凝った作りで、十一月の連休には願い事をしながらなでる人々で賑わった。

群馬県

高山村商工会

# ナイトウォークで星空を楽しむ

高山村では、県立ぐんま天文台が設置されていることから、星空の観測に協力するため一九九八年に光環境条例を制定し、自然環境保護運動を推進している。その一環として商工会は、澄みきった秋の星空を堪能する「ナイトウォークinたかやま」を開催した。

住民ら参加者一三〇人は、天文台で行われた「星空教室」に参加し、午後八時に天文台を出発。約三時間半、天文台から国民宿舎わらび荘など三カ所のチェックポイントを経て、ゴールの高山温泉ふれあいプラザまで九キロのウォークを楽しんだ。